

人は、周りの環境で生活が大きく変わります。若い時はその変化にも柔軟に対応できますが、歳を重ねるとなかなか思うように心も体もついていかないのが現実です。

「バーバーの家はどうして汚いの？」「え？バーバーの家は汚くないよ？古いけれど綺麗だよ？古いと汚いは違うんだよ！」孫が私の家に遊びに来た時の会話です。言われてみれば汚い所もあるかな？新築の家に住む孫にとっては、私が住む古い農家作りの我が家は居心地が良くなかったのかもしれない。しかし、どんなに綺麗な旅先の旅館で心躍る時間を過ごしたとしても、家に帰った時のほっとする安心感はどなたでも経験することではないでしょうか。住み慣れた家の匂い・馴染みの家具に囲まれていると心から和むものです。私にとっては、古い我が家は居心地最高です！

認知症の方にとっては、環境を整えることがとても大切と言われています。馴染みの家具や使い慣れた食器はもちろんですが、その方が大切にしているものを身近に置くことで何よりの安心につながります。趣味やアルバムなど昔の思い出を大切に、今を生きていけるのです。安心するといえば、私の孫が眠りにつくとき、古びたぬいぐるみがいっしょのお布団の中にいます。誰しも大切な物に囲まれて生活したいですね。人が何より大切にしているのは環境だと実感します。

認知症介護の現場で働く者として、時に古いぬいぐるみであったり、馴染みの昔話を楽しく語り合える、そんな存在でありたいと強く思う今日この頃です。

私たちはここにいます！

認知症地域支援推進員配置施設

- 利根町地域包括支援センター ☎68-8941
- 利根町保健福祉センター ☎68-8291
- 複合施設 響 ☎61-8500
- 介護老人保健施設もえぎ野 ☎84-6081

「プラごみ問題」 その3

今回は「使い捨てを減らそう」のお話です。

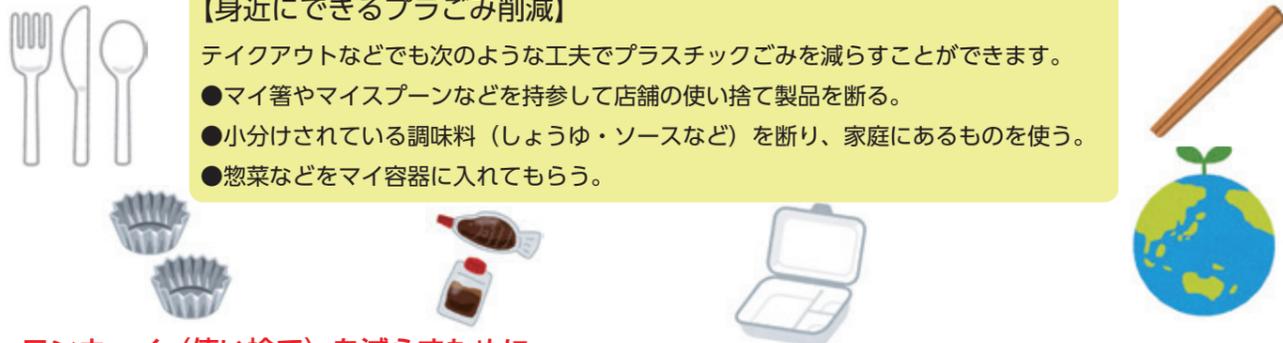
テイクアウトやデリバリーでの食事。それにはプラスチック製の容器だけでなく、使い捨てのスプーンやフォークもついています。こうした一見便利な製品が、日々のプラスチックごみを増やしています。



【身近にできるプラごみ削減】

テイクアウトなどでも次のような工夫でプラスチックごみを減らすことができます。

- マイ箸やマイスプーンなどを持参して店舗の使い捨て製品を断る。
- 小分けされている調味料（しょうゆ・ソースなど）を断り、家庭にあるものを使う。
- 惣菜などをマイ容器に入れてもらう。



ワンウェイ（使い捨て）を減らすために

ワンウェイプラスチックを減らすために、プラスチック資源循環法では「特定プラスチック使用製品 12 品目」を定めています。それらの製品を提供する小売り・サービス事業者には、削減に取り組む工夫が求められています。プラスチック削減に取り組んでいる事業者を応援するのは消費者の購買スタイルです。

【小売り・サービス事業者の取り組み例】

- ・ワンウェイプラスチックの有償提供
- ・必要かどうか顧客の意思を確認
- ・特定プラスチックを必要としない顧客に対する景品やポイントの提供
- ・繰り返しの使用を促す など

特定プラスチック使用製品 12 品目	対象業種
①フォーク ②スプーン ③テーブルナイフ	・コンビニ ・スーパー ・百貨店
④マドラー ⑤飲料用ストロー	・ホテル ・旅館 ・飲食店・フードデリバリー など
⑥ヘアブラシ ⑦くし ⑧かみそり	・ホテル
⑨シャワーキャップ ⑩歯ブラシ	・旅館 など
⑪衣類用ハンガー ⑫衣類用カバー	・スーパー ・百貨店 ・クリーニング店 など



3月8日は国連が定める「国際女性デー」です

国際女性デーとは？

1904年3月8日、ニューヨークにおいて女性労働者が婦人参政権を求めてデモを起こしたことが起源となり、1975年に国連は3月8日を「女性の社会参加と地位向上を訴える日」として「国際女性デー（International Women's Day）」が制定されました。

シンボルはミモザの花

イタリアでは3月8日に男性が女性にミモザの花を贈る習慣があることから「ミモザの日」と呼ばれています。イタリアではミモザに「感謝」という花言葉があり、さらに春の象徴で「幸せの花」とも呼ばれています。実際にミモザはイタリアのみならず、国際女性デーのシンボルとなり、ミモザの色である黄色がシンボルカラーとして使われるようになりました。

日本の男女の格差

男らしさや女らしさなど、社会的・文化的に作りだされた性差によって生まれる不平等や格差のことを、ジェンダーギャップといいます。それを数値で見える形にしたのが「世界経済フォーラム」で公表しているジェンダーギャップ指数というものです。

2023年6月に発表されたジェンダーギャップ指数によると、日本は146カ国中125位となっており、女性の社会進出やジェンダー格差縮小が進む世界の動きに日本が追いついていない状況が見えてきます。

▼日本のジェンダーギャップ指数と順位

分野	2023年		2022年	
	ジェンダーギャップ指数	順位 146カ国中	ジェンダーギャップ指数	順位 146カ国中
政治分野	0.057	138位	0.061	139位
経済分野	0.561	123位	0.564	121位
教育分野	0.997	47位	1.000	1位
健康分野	0.973	59位	0.973	63位
総合	0.647	125位	0.650	116位

▼世界ジェンダーギャップ指数の上位国

2023年（総合）	
1	アイスランド
2	ノルウェー
3	フィンランド
4	ニュージーランド
5	スウェーデン
6	ドイツ
...	
125	日本

※指数は、男性に対する女性の割合を示しており、0が完全不平等、1が完全平等を表している。

身近なことから始めてみませんか

世界ではまだまだ様々なジェンダーギャップがあります。そのような不平等を少しでもなくせるよう「国際女性デー」が誕生しました。ジェンダー平等の実現に向けて解決する問題は多岐にわたりますが、まずは、身近なところから…家庭や職場、そして自分自身の発言など、ジェンダーに基づく偏見があるかどうか、見つめなおしてみませんか。ひとりひとりが一歩踏み出して行動することで、日本、そして世界のジェンダー平等の実現へと少しずつ近づいていくのです。



● 問い合わせ先 政策企画課 政策企画係 ☎68-2211（内線338）